動くな、死ね、甦れ！（1989）

ZAMRI, UMRI, VOSKRESNI!
FREEZE-DIE-COME TO LIFE
DON'T MOVE, DIE AND RISE AGAIN!

メディア	映画
ジャンル	ドラマ
製作国	ロシア
色彩	B&W
時間	105分
初公開日	1995/03/18
公開情報	ユーロスペース
リバイバル	2009/11/07［エスパース・サロウ］ 2017/10/07［ノーム］（ＨＤリマスター版）

【解説】

本作で９０年カンヌのカメラ・ドール（最優秀新人監督賞）を受賞した時、カネフスキーは５４歳だった。それ以前に短篇一作と、押しつけられた企画の長篇一本をものにはしているが、無実の罪で映画学校在学中に逮捕され、８年を獄中に暮らしたこの男の実質的なデビューはやはり本作からなのだ。

第二次大戦直後のソ連極東の収容所スーチャン。１２歳のワレルカは母親と二人バラック暮らし。近所の同い歳の少女ガリーヤが列車の到着に合わせ開かれる市でお茶を売るのを真似て、ワレルカも営業開始。貯めた金でスケート靴を買うが悪童たちに奪われる。雪の校庭で行進練習。と突然トイレが溢れ返り、悪臭が学校中に漂う。イースト菌を使ったワレルカの悪戯だった。その日帰宅すると母は愛人と情事に耽っており、彼女に片想いの隣人の炭坑夫はそれを覗いて憤然と立ち去る。言うなれば吹き溜まりのこの町。発狂した元学者は配給の小麦に泥を混ぜむさぼる。収容所では１５歳の娘が特赦になろうと妊娠を望んで男に体を開く……。日本人捕虜も多く、ワレルカは彼らと親しい。連中が口ずさむ異国の童謡は少年の内なる主題歌だった。母に例の悪戯を白状させられたワレルカは学校を退学になった。腹立ちまぎれに以前殴られた機関士に復讐しようと、パチンコを持って出かけた彼。ふと、線路の連結を変えたのが大事故につながって、恐ろしさから貨車に飛び乗り祖母の家に赴けば、新しい愛人のいる彼女は彼をとことん疎んじた。やがて、ウラジオストックで強盗団の仲間入り。だが、夏になって“守護天使”ガリーヤが彼を探し出し連れ帰る。しかし、故郷を目の前にし、彼らは後を追う強盗団の姿に気づかずにいた……。

映画の枠が描かれる物語に呑み込まれるような強烈なラストは、それまでの映画の終焉すら意識させる。傷だらけの登場人物たち。色彩に溢れたモノクロの撮影。すべて真実以上の真実。誰だって少年のその後を知りたいと願うから、監督は同じナザーロフとドルカーロワの主演で続編「ひとりで生きる」を撮ることになる。

【クレジット】

監督	ヴィターリー・カネフスキー	Vitali Kanevsky
製作	アレクセイ・プルトフ	
脚本	ヴィターリー・カネフスキー	Vitali Kanevsky
撮影	ウラディミール・プリリャコフ	Vladimir Brilyakov
	Ｎ・ラズトキン	N. Lazoutkin
音楽	セルゲイ・パネヴィッチ	Serguei Banevich
出演	パーヴェル・ナザーロフ	Pavel Nazarov
	ディナーラ・ドルカーロワ	Dinara Drukarova
	エレーナ・ポポワ	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.